



(一社)日本舞台音響家協会
理事長
渡邊 邦男

テスト会の全体評価

入場者の関心はいかがでしたか。

ユーザーにとっては「E」を一同に集めて行うイベントのため、皆さん非常に興味を持って来て頂いたと思います。

ただ、思っていたほど質問がありませんでした。もう少し厳しい質問が出てよかったと思います。(笑)

5/6月のテスト会では、限られた時間の中でどれほどユーザーの興味を引く内容にすることが出来るかが大きな課題になると考えています。

入場者の新機器選定の参考になりましたか。

各製品を押し並べて見ることができたためユーザーの参考になったのではないのでしょうか。

あれだけの新製品をまとめて見ることができ、聴くことで、新製品を絞込む一つの目安になっていたと思います。また、ホワイトスペースと1.2G帯で使用できるすべてのメーカーを集めた業界初の試みとしても非常によかったです。

音質評価

デジタル製品の品質はいかがでしたか。

新しい設計の製品が多くリリースされ、クリティカルな音を再現する実験をしてコンパクターやコーディックの改良が確認出来、音質もよかったと思う。メーカーによりそれぞれ特色は異なるが、全体を通して改良されてきている印象を受けました。ユーザーも新製品のデジタルにある程度、安心出来たと思います。

アナログ製品の品質はいかがでしたか。

今まで通りの品質は確保している。設計が古いものは現行と同等であり、新しい製品は、ややコンパクターの性能が良くなったと思います。

運用調整方法について

新周波数帯の運用調整方法について最新動向について教えてください。

「E」ホワイトスペース等利用システム運用調整協議会が「4-1」から発足され、新たな運用調整システムの稼働を開始しました。現時点の特殊機構の運用調整費は据え置きになりますが、ユーザーの負担を少しでも減らす方向で調整していきたいと考えています。

また、「E」ホワイトスペース等利用システム運用調整協議会への新規会員の入会手続きの流れや新しい運用ルールの構築をする必要がありますが、移行完了後の安定運用に向けて知恵を絞っていきたくと思います。

新機器導入のポイントについて

主要機器がリリースされてきましたが、移行 導入に際してのポイント、移行後の音響業界への展望を教えてください。

移行に伴う導入のポイントには「音質、製品の耐久性、デザイン、アウトインタワーフェースにデジタルアウトが搭載されていること」が挙げられます。

また、充電池の場合は「バッテリーの信頼性が高いこと(どこまで持つか)」。そして、マルチ運用での「アンテナの本数が少ないほうがよい」と思います。

今後の展望は、ワイヤレスとワイヤードの差が無くなり、ワイヤードと遜色が無いぐらいの製品が出てくること、そして、音像定位もコントロールできるシステムが出現することを期待しています。

総合的に新しいワイヤレスの評価はいかがでしたか。

デジタルは新規開発により、音質・遅延ともに改良され、値段よりも良い製品(音質)になっていく。アナログは基本的に現行と同等か、それ以上の品質を確保しています。

遅延評価

遅延は気になりましたか。

追い込んだ実験では無いが、自然体で聴けているので問題はなかった。(気になるレベルでは無かった。)

ユーザーも遅延については少し安心したと思います。

但し、遅延は、「W」インプットの伝送系、卓上アウトプットの伝送系「スピーカーまで」のトータルで評価されるため、「E」に限らず各製品の遅延がもっと改良されることを期待しています。

マルチチャネル運用

最大3.2波で試験したが、多チャンネル運用の可能性はいかがでしたか。

今回の試験結果としては十分に評価出来るものになったと思います。

特定ラジオマイクチャンネルリストの利用可能な周波数と各製品のチャンネルプラン(アナログ・デジタル)の取り方にもよりますが、マルチチャンネル運用として各社十分に使用できます。

移動運用のツアー等を考えると、チャンネルプランの組み方や機材の運用方法が今後の課題になると考えています。

電波伝搬について

新しい2つの周波数はそれぞれ、現行製品と比較し、伝搬はいかがでしたか。

ユーザーの運用場所や使用環境に応じて異なります。今回の実験は厳しい条件で実施していないため比較が難しいが、テスト会の内容(舞台・客席の周囲)では、今までと同等の送受信状態であることが確認できました。

多チャンネルシステムについて

卓側の200MHz運用はいかがでしたか。

デジタル伝送は今後導入していかねばならないと考えています。このテスト会では200MHzを超える回線を使用しました。今回実施して感じたことは一代前に比べ、音質・安定性ともに改良され、Danteネットワークに直接接続できるEが登場してきたことで、今後利用する上で便利になると思います。

総合的には、デジタル化に伴い遅延が少し増えてくるので、今後の更なる技術発展による改良を期待したいと思います。

デジタル伝送と卓の連携はいかがでしたか。

十分に連携はとれていました。デジタル伝送は、今後の主流になります。理由は、長距離伝送間でのノイズやケーブルロスが無いこと、ネットワーク間での音声データのやり取りが自由に行えることが挙げられます。今後の新規に設計する施設や改修に合わせて導入が進むと思います。

各メーカーのラインナップについて

機器選定に必要な一定のラインナップが揃いましたか。

おむね各社からラインナップが揃ってききましたが、ソニーの1.2GHz帯発売済、プラグオン送信機、イヤモニなど2月のテスト会で試せていないものは、5月に開催するテスト会等で評価を進めていきたいと思っております。



各社新製品を続々リリース